

「米づくり」を学んで考えた

三次市立八幡小学校六年 信木 星哉

七月のある日「学校の米づくり」でお世話
になつてゐる方にお話を聞きました。米不足
備蓄米など、毎日のようにニュースの話題に
なつています。ぼくたちは、まわりが田んぼ
だらけの田舎に住んでいます。お米のこと
が話題になることはあまりありません。それ
でも、五年生の社会で学んだことやニ
ュースで聞くことから、今の米づくりは、どんな様
子なんだろうと、とても興味がありました。

三次市立八幡小学校

社会で学んだ庄内平野とぼくたちの八幡の
米づくりのちがいについて質問してみました。
庄内平野は、一まいの田の大きさがとても大
きいけれど、八幡の田は小さく、大きい機械
を使つて速く作業することができないそうで
す。また、ドローンや飛行機を使つて上から
じよ草ざいなどをかけるとこう率が良いけれ
ど、八幡ではそれが少し難しいそうです。ぼ
くは、やっぱり田んぼの面積が小さければ、

さまざまなことに困るんだな。と思いました。
ぼくはニユースで八月にいなかりをしてい
るところを見て、八幡では九月ごろいなか
りをするのに地域によつてちがうのはなぜだ
ろう。と考えていました。お話では日本は北
の方は寒く南の方は暑いから地域によつてす
る作業がちがうと言われました。ぼくは、気
温や地形がちがうから、庄内平野と同じよう
にはいかないのか。と思いました。

今年の夏はとても暑く水不足で米がどうな
るか。というニュースも見ました。だから、

三次市立八幡小学校

そのことについても聞いてみました。すると
八幡は川の上流にあるからあまり水には困ら
ないことが分かりました。ぼくは、これまで
学んできた社会や理科は、米づくりに深くつ
ながっているなと思いました。

地域の方が困っていることは、たくさんの
田を管理することです。ぼくの住む八幡は、
これまた社会で学んだようにお年寄りが多く
田の世話をしにくくなっています。この地域

の方は、八幡の田の五分の三を世話しておられます。また、機械の価格が上がり最低賃金が上がリ、農家さんはあまりもうけがないそうです。ぼくは「仕事はどんどんたいへんになるのに、もうけはあまり無い。それに対してやりがいはあるのか。」と考えていると、
「たいへんな仕事だけど、お米を買ってくれた人が、『おいしい。また買いたい。』と言ってくるのがやりがいです。」

と地域の方は言われました。しかも、

三次市立八幡小学校

「こうしてがんばること、」八幡に住みたい。住もう^④。という人が増えるかもしれない。と力強く言われました。
こうして学んだことから、ぼくはいろいろなことを考えました。一つ目は、いつも当たり前のように食べているご飯をも「感謝して食べていくことです。二つ目は、学んだことをこれからの学習やぼくの生き方に生かしていくことです。三つ目は、学びや考えをだれかに伝え広めていくことです。」